



# 京臨技会報

KYOTO ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所 (社)京都府臨床検査技師会  
 発行責任者 湯浅 宗一  
 編集者 白波瀬 浩幸  
 〒606-8395 京都市左京区東丸太町  
 9番地の1 マンパワービル3F  
 TEL・FAX 075-752-5090  
 E.mail : mbox2@kyoto-amt.js-md.net

## CONTENTS

TOP	京臨技ホームページ携帯版
PICK UP	一次救命処置講習 (AED使用方法含む)
SEMINAR	研修会報告 (チーム医療・臨床化学・血液・情報・事業部)
SCHEDULE	行事予定
PROCEEDINGS	理事会議事録 (第7回、第8回)
INFORMATION	[日臨技発]厚生労働省通知について

## 京臨技ホームページ 携帯版



京臨技の行事予定を携帯電話から手軽にチェックできる京臨技ホームページ携帯版を開設しました。右のQRコードを携帯電話のバーコード読み取り機能を使って、アクセスください。(URL : <http://www.kyoto-amt.js-md.net/i.html> )

Bookmarkに登録していただくと、「あの研修会いつだったっけ?」となったときに素早く確認いただけます。まずは、一度アクセスしてみてください。



Drive By BeSystem co.,Ltd.

## 京臨技理事候補大募集

来年度は役員改選年度です。京臨技では何人かの退任希望理事がいるため一緒に活動を手伝ってくださる会員を募ります。

役員になると、自分の大切な時間を今までより多く技師会活動に費やすこととなります。しかし、自分たちが生業としていることですから、自らで発展させていくのも大切なことです。一人の人間にできることは些細なことです。その一人一人が些細であるから何もやらないでは事が進みません。誰かがやらないと事が進みません。確かにラクじゃないかもしれませんが、技師会活動を通じて多くの仲間を作り、勉強機会が増えることによって、仕事の上でも有益なこともきっとあるはずです。

自薦・他薦を問いませんので、「京臨技の活動を手伝ってもいいよ」という方がおられましたら、お近くの理事や事務局にご一報ください。

『「であい」と「わかれ」のなかに、すべてがある。すべてのなかに、「であい」と「わかれ」があるわけではない。そんな気がしてならない。』(ほぼ日、ダーリンコラム、糸井重里)

きっと、「であい」と「わかれ」のなかに、何かがあるはずです。一緒に活動をしてみませんか。

## PICK UP

## ピックアップ レポート

# 一次救命処置講習（AED使用方法含む）

日時：2008年2月2日（土）（9:00～12:30）

参加人数：63（12）人 分類：基礎7（公益活動）-20点

主題：一次救命処置講習（AED使用方法含む）

講師：小林 和博 事業推進課主事 ほかに2名（日本赤十字社京都府支部）

心配蘇生法と自動体外式除細動装置（Automated External Defibrillator；AED）を用いた除細動の手順についての講習を受けました。最初は救急法の基礎知識として、全身を毛布で包む手技についての解説です。傷病者を床に寝かせたまま上から毛布を掛けるだけでは、床面からの体温低下が避けられないため、手際よく全身を毛布で包む手法の紹介でした。

次に心肺蘇生法です。1．傷病者の発生、2．周囲の観察（二次的な事故が起こらない安全な環境を確認）3．全身の観察（大量出血や嘔吐などの有無）4．意識の確認、5．協力者を求める（協力者がいれば119番通報とAEDの依頼）6．気道確保、7．呼吸の確認、8．（呼吸していなければ）人工呼吸2回、9．胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す（この後、協力者によってAEDが到着）10．AEDを装着後、AEDの指示に従う（心電図解析、電気ショック1回）11．（蘇生できなかった仮定して）胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す（2分間）12．AEDの指示に従う（心電図解析）の手順で実施しました。実際には、「人工呼吸」「胸骨圧迫」「AED」のパートに分けて実施後、全ての手順を通して行いました。

4人1班にて実習を行い、全員が心肺蘇生を実習します。途中で他の班とAEDを交換することで、各班が3機種のアEDを使用することができました。AED操作は難しいわけではありませんが、機種による違いを体験できたことは、いざというときに落ち着いて行動ができそうです。

社会や家庭において、呼吸停止・心停止に陥った傷病者を発見したとき、医療者として適切な行動をしたいものです。教科書的な知識をもっているだけと、講習を受けて実習を行った経験があるのとでは、実際の現場での行動には大きな差があるものと思います。会員のみなさんも、是非一度は講習を受けられることをお勧めします。

文責：白波瀬 浩幸



## SEMINAR

## 研修会報告

## ●●● 学術部 チーム医療 07-039

第6回京都糖尿病療養指導士研修会  
「知っておこう！シックデイ！」

日時：平成19年12月1日 土曜日 13:00～17:00  
会場：メルパルク京都（京都郵便貯金地域文化活動支援施設）

## 演題1：シックデイ指導のコツ

講師名：小林 美保 氏（京都医療センター 看護部）

## 演題2：「シックデイの病態」

講師名：村田 敬 先生（京都医療センター 糖尿病センター 内科）

## 演題3：ワークショップ 『仮想症例検討 シックデイ どうすれば重症化を防げたか』

講師名：村田 敬 先生（京都医療センター 糖尿病センター 内科）、小林 美保 氏（京都医療センター 看護部）

分類：15 チーム医療-54 専門認定技師関係-20 点

共催：三光純薬株式会社、京都 CDE の会

全体参加人数：21 名

会員参加人数：12 名

定例の糖尿病療養指導士研修会で京臨技主催だが、臨床検査技師以外に看護師、薬剤師、管理栄養士と多職種の方々の参加があった。今回も、京都医療セ

ンターの医師と看護師に講師をお願いした。

テーマは、知っておこう！シックデイ！。一部は、医師と看護師からシックデイとはから始まり、シックデイで起こる問題、シックデイとインスリン抵抗性、脱水症、インスリンとケトン体、遊離脂肪酸の代謝、ケトン体の代謝、ケトアシドーシス（DKA）、高血糖性高浸透圧性昏睡（HHS）、DKA と HHS の比較、シックデイの悪循環、悪循環をくい止める方法と話が進み、解りやすい講義であった。

二部は、二つの問題症例について、5～6 人のグループに分かれて症例の問題点や治療法、指導の方法などについて討議し、その内容をそれぞれのグループが発表した。講師はテーブルを回りながらグループ討議のアドバイスして頂き、それぞれのグループ発表に対しての助言と総評をして頂いた。

この研修会は、ワークショップによる症例検討を行っているのが、好評で今後も続ける意義があると思える。また、糖尿病療養指導士の資格がなくても十分に参加できる。今後この方面に進みたいとか興味がある臨床検査技師は、ぜひ参加して実際に療養指導をしている検査技師だけでなく病院内の他のスタッフの話も聞けたり知り合いになれ、今後の参考になると思える。（臨床検査技師も検査室から飛び出し、チーム医療に参画しましょう！）

（三菱京都病院 荻野 和大）

## ●●● 臨床化学 07-041

日時：平成19年12月11日（火）（18:30～20:30；京臨技川端丸太町事務所）

参加人数：22（16）人 分類：専門4-5-20

主題：京臨技としての臨床検査データ共有化事業推進の方針と現状

講師：南部 昭 技師（京都府立医科大学付属病院臨床検査部）

主題：日本における標準化の動向と日臨技データ標準化

副題：特定健診を目前に控えて

講師：高橋 義孝 氏（日水製薬株式会社 カスタ

マー支援営業部）

協賛：日水製薬株式会社 カスタマー支援営業部

京臨技としての臨床検査データ共有化事業推進の方針と現状

- 1、臨床検査データ共有化ガイドライン-基幹施設-
- 2、京都府における事業の現状
- 3、京臨技サーベイのデータ集計結果 UA について 医学検査 2006 Vol.55 臨床検査データ共有化マニュアルよりその方策・基幹施設の設置基準を、また都道府県基幹施設の測定基準として 1、測定法の選択と性能表示 2、測定機器の条件 3、精密度の評

価 4、正確さをトレースした測定値の保証 5、正確さに基づいた測定値の維持管理について、解説いただいた。その後京都府における共有化事業の現状と、京臨技サーベイでの UA の測定結果についての報告を受けた。また基幹施設間の情報交換や、地域内、外部精度管理のデータ処理に係る労力は膨大であること、今後の課題などお話しいただきました。

#### 標準化・共有化に向けての制度管理

- 1、JCTLM 会議について
  - 2、臨床検査標準化基本検討委員会について
  - 3、日臨技データ共有化事業について
- 科学的な医療の実現には臨床検査の標準化が必須である。
- 2002 年、国際度量衡局 (BIPM) に国際的な標準化を推進すべく、JCTLM (Joint Committee for Traceability in Laboratory Medicine) 会議が発足した。我が国からは JCCLS/JCSS 勧告法や常用酵素標準物質 (JC・ERM)、HECTEF 常用標準血清などが

提供されている。

日本における臨床検査の標準化の新しい体制として、JCCLS 標準化基本検討委員会が設立される。その目的・内容として 1、標準物質・基準操作法の整備 2、測定値の標準化 3、データベースの構築を掲げる。

1 は、産総研と臨床化学会、臨薬協がそれを国際的に通用するものにする。2 は、内部および外部精度管理の確立、そして全国規模での地域格差を是正する。3 は、医療(診断や治療方針)の標準化を目標とする。

標準化の手法としてパッチワーク方式の解説を、また標準化基本検討委員会の関連機関・省庁の紹介を。日臨技データ共有化事業については、その戦略・活動計画、基幹施設の選択基準とその任務など、また市販管理血清の評価や利用法など、豊富な内容のご講義をいただきました。

平成 19 年 12 月 11 日報告：下川原 えり

## ●●● 血液 07-042

日時：平成 20 年 01 月 19 日(土)(14:00~18:00；  
キャンパスプラザ京都)

参加人数：73(57)人 分類：専-20

主題：Case Study 5

講師：村上 典子 技師(京都市立病院)

主題：京都府技師会精度管理報告

講師：由木 洋一 技師(京都府立医科大学附属病院)

主題：データ共有化事業について(血液)

講師：梅村 茂人 技師(滋賀県立成人病センター)

主題：エビデンスからせまる形態診断

講師：阿南 建一 技師(国立病院機構九州がんセンター)

合同：滋賀県臨床衛生検査技師会血液研究班

協賛：シスメックス株式会社

Case Study5 では、低値血小板数の際に、偽性低値(EDTA 依存性血小板減少症)や偽性高値(破碎赤血球出現)を注意しなくてはならない。自動分析器のスキッタグラムやヒストグラムの確認、標本を作製し血小板凝集や破碎赤血球の確認。対応策として目視鏡検や他の測定原理で血小板測定が必要

であると指摘された。京都府技師会制度管理報告では、配布している試料によって、一部メーカーの自動分析器のデータにずれが出てしまう。単位について、今年も記入ミスがあった。また、案内にありませんでしたが、急遽データ共有化事業について梅村氏に講演して頂いた。この分野は生化学検査についてのデータ共有化には、随分力が入っているようであるが、第一次標準物質もない中で、各メーカーの親機(コントロールの値付けする機械)にコントロール値は委ねられている。単位の標準化が出来ないものだろうか？WBC の報告でも、10 の二乗か 10 の 3 乗かまちまちである。PLT や RBC も同様である。データ共有化事業の中で統一できる方向にいけばいいのであるが。最後に、エビデンスからせまる形態診断として、阿南氏に 2 時間に及ぶ講演をして頂いた。血液形態の標準化、形態異常からせまる病型、背景からせまる病型、特殊染色の有効利用について丁寧に説明があった。いかに形態学をすきになるか。いかに興味を持つか。形態画像を多数用意されて、異形成や染色の微妙な染まり方等について講演された。

平成 20 年 01 月 25 日報告：志賀 修一

## ●●● 情報 07-054

日 時：平成20年1月12日 土曜日 15:00～17:00（京都大学医学部附属病院検査部会議室）  
参加人数：10（10）人 分類：基礎5-20点

主 題：管理図による検査データの精度管理  
管理図の数理とその見方

講師名：大森 崇 准教授（京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻）

今回は医療統計学シリーズ第4回の講演会となる。主題は「管理図による検査データの精度管理」で、実際の臨床検査業務においても必須となる管理図について数理的な背景も交えて解説していただいた。

### 位置と尺度の指標

データを要約する指標として次のようなものがある。

- ・ 平均値
- ・ 標準偏差
- ・ 分散
- ・ 範囲

これらの指標はあるデータ集団に対して一つ導き出される値であるが、そのデータ集団を複数回とると、それらの指標もその都度変化する（ばらつく）。そのような指標のばらつきを示す指標のことを「標準誤差」という。

### 正規分布

正規分布の特徴としては、次のようなものがある。

- ・ かたちは左右対称で、全て足すと1になる
- ・ 二つのパラメータ（一般的には $\mu$ と $\sigma$ ）があり、それが決まると正規分布のかたちが一つに決まる
- ・  $\mu \pm \sigma$  の間に68.3%のデータが入る
- ・  $\mu \pm 2\sigma$  の間に95.5%のデータが入る
- ・  $\mu \pm 3\sigma$  の間に99.7%のデータが入る

誤差を伴う測定値の理論的な分布として、正規分布を利用することで、おおよその範囲にどれだけのデータが入るのかを推定することが出来る。

### 管理図のみかた・使い方

管理図を活用することとは、管理図に示されてい

る情報をくみとり、そして適切な行動をとることである。

### 管理図のみかたの基準として

主なみかた：点が管理限界線の外に出ない

- ・ 管理内であっても1000回に3回ははずれる
- ・ されに何度も点をプロットすると偶然でも（何の異常がなくても）外れる場合がある
- ・ 経験的にいわれていることとして

- a) 連続25点がすべて限界内にある
- b) 連続35点中、限界外の点が1点以内
- c) 連続100点中、限界外の点が2点以内（ただし、限界外の点が異常でないこと）

副次的なみかた：点の並びにくせがない

- ・ くせとは
- a) 連があらわれる
- b) 傾向や周期があらわれる
- c) 中心線のまわりに多くの点があられる（機器間のばらつき）
- d) 限界線に接近して多くの点があられる（日間変動があるとき）

これらの基準がみたされない判断した場合には原因を追究する。

### 原因の追究

工程解析：どのような要因が影響しているのかを調べて把握することを工程解析といい、問題点を見つけた場合の改善あるいは安定化のための標準化の方法である。

層別：ある要因で（時間別・作業員別・装置機器別・原料材料別など）で層にわけた管理図を作成

規格との比較：管理図を作成するときに使ったすべての測定値でヒストグラムを作成して規格と比較し、ヒストグラムが規格の上下限によとりをもっておさまっていればよい

以上のような手法をもちいて、安定した工程が望ましい状態であるように保つことを工程管理という。安定した状態（管理状態）を保つために、管理図は有用な手段の一つである。

平成20年2月1日報告：増田 健太

## ●●● 事業部 07-005

日時：平成19年12月15日(土)(12:00~17:00;  
サンプラザ万助)

参加人数：100(54)人

主題：第18回(社)京都府臨床検査技師会北部学術  
発表会・一般演題発表(YIA部門、一般部門)・特  
別講演

副題：がんについて知ろう～がん治療における栄養  
管理(特別講演)

特別講演講師：大村 健二 講師(金沢大学医学部  
附属病院)

今年で18回目を数える通称「北部学会」を多く  
の人のご協力の下、無事開催終了することができま  
した。今年は演題発表の部に「YIA部門」を開設し、

新しい若い力の発表を募りました。このYIA部門に、  
北部の各施設から計7演題のエントリーがありました。  
発表者の堂々とした態度はもちろんのこと、  
どの発表も各施設の多大な協力・指導のあとが垣間  
見られ、素晴らしい内容でした。特別講演では、大  
村先生が金沢の方言も交えてがんについて大変わ  
かりやすくご講演いただきました。学会終了後に行  
われた情報交流会では、たのしいゲームあり、多く  
の人との交流ありで、平成19年を締めくくるよい  
会でした。今回のYIA企画を開催してみて「先輩が  
後輩を育てる」というこの当たり前のことの持つ意  
味と大切さを肌で感じ、自分たちの毎日を反省し帰  
路につきました。

平成20年01月15日報告：四方 学

## ●●● 学術部 チーム医療 07-053

第3回京都北部CDEの会 講習会  
「糖尿病医療の最前線」

日時：平成20年01月26日(土) 14:00~18:00

会場：舞鶴医療センター内 地域医療研修センター

分類：15-54-20

共催：京都CDEの会 / 京都府臨床検査技師会 / 京都  
府病院薬剤師会 / 京都府看護協会 / ノボノルデ  
ィスクファーマ株式会社

全体参加人数：81名 会員参加人数：4名

### 【トピックス】

主題：地域での糖尿病対策と現状

副題：特定健康診査についての実際

講師：肥後直子 看護師(京都府立医科大学付属病  
院)

### 【一般演題】

主題：カーボカウントと支援

副題：カーボカウントとは

講師：幣 憲一郎 先生(京都大学付属病院 疾患  
栄養治療部)

副題：カーボカウントを用いての支援の実際

講師：大倉 瑞代 看護師(京都大学付属病院)

副題：カーボカウントの利用法(原内科クリニック)

### 【特別講演】

主題：新たな糖尿病の治療戦略

講師：稲垣 暢也 先生(京都大学大学院医学研究  
科 糖尿病・栄養内科学)

講演1：平成20年度から始まる特定健康診査の目

的や実際の流れについて、糖尿病対策を中心にした  
内容

講演2：カーボカウントについて基礎から実践まで  
の理解しやすい内容であった。2型糖尿病の血糖コ  
ントロールにおいて、食物の炭水化物量でインスリ  
ン量を決めるという考え方を学んだ。洋食や和食の  
コース料理では炭水化物量のみでなく、脂質量、たん  
ぱく質量に加えてアルコールの炭水化物量や調味料  
なども考えながらインスリン量とタイミングを調節  
するところが、大変興味深く話に引き込まれてい  
った。

講演3：世界の糖尿病の現状と糖尿病を取り巻く社  
会情勢に始まり、炎症の考え方や食後血糖と大血管  
疾患の関係、インスリン抵抗性、新たな治療薬のイ  
ンクレチンの作用機序、SU剤との違いなどについ  
ての講演であった。特に印象的であったのはインク  
レチンは膵臓細胞に作用し、インスリン分泌を増  
強させると共に細胞の増殖を促進しかつ細胞死を  
抑制する作用を持つ優れた治療薬であること。そ  
して境界型の段階ですでに細胞量が3割減少して  
いるため、IGTの段階から早期に介入するべきで  
あるという部分である。SU剤に比べて副作用が少  
ないことも注目すべき点であった。

今冬一番の雪に見舞われたが、京都北部のみならず  
福井嶺南や奥丹後、南丹からも多数参加があった。  
臨床検査技師は4名のみ(全員CDE)であったが今  
まで把握できていなかった他病院のCDEの存在が  
わかり、今後の交流に期待ができる結果となった。

(市立舞鶴市民病院 橋 久美)



### 情報システム分野【研修会】07-028

日時：2008年03月08日（土）15:00～17:00  
 会場：京都大学医学部附属病院検査部会議室  
 座長：増田 健太 技師（京都大学医学部附属病院）  
 主題：医療統計学講座6  
 講師：大森 崇 准教授（京都大学大学院医学研究科  
 社会健康医学専攻医療統計分野）

座長：相田 幸雄 技師（京都南病院）  
 主題：輸血の精度管理  
 講師：古杉 光明 氏（オーソ・クリニカル・ダイア  
 グノスティックス株式会社）  
 主題：京臨技輸血検査精度管理報告会  
 講師：青山 絹子 技師（第二岡本総合病院）  
 協賛：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス  
 株式会社輸血分野

### 細胞分野【研修会】07-052

日時：平成20年03月08日（土）13:00～17:00  
 会場：京都リサーチパーク 東区1号館 4階 中会  
 議室A  
 座長：黒川 聡 技師（国立病院機構 京都医療セン  
 ター 研究検査科）  
 主題：Liquid Based Cytology-SurePath 法の原理とこ  
 れからの展望  
 講師：二谷 悦子 技師（株式会社 医学生物学研究  
 所 情報科学事業部）  
 主題：スライドカンファレンス  
 講師：京都・奈良技師会会員  
 協賛：株式会社 医学生物学研究所  
 合同：奈良県臨床検査技師会・日本臨床細胞学会京都  
 府支部・奈良県支部

### 生理【講演会】07-54

日時：2008年03月22日（土）15:30～17:00  
 会場：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室  
 座長：鮎川 宏之 技師（医仁会 武田総合病院 生  
 理検査科）  
 主題：末梢血管疾患のカテーテル治療の実際  
 講師：中村 茂 氏（京都桂病院 心臓血管センター  
 所長）

### 事業部 07-009

日時：平成20年03月22日（土）15:00～18:00  
 会場：京都保健衛生専門学校  
 座長：清井 健司 技師  
 演題：プランチラボが抱える構造的な問題と病院検査  
 室のジレンマ  
 講師：新屋 博明 技師（エムティー法務研究会 宮  
 城県臨床検査技師会）  
 演題：将来の検査室を考える

### 輸血【研修会】07-056/057

日時：平成20年03月08日（土）14:00～16:00  
 会場：京都アスニー

平成19年度 移植検査部門研修会（日臨技主催、生涯教育研修課程：専門教科20点）

テーマ 細胞治療とその安全性

会期 平成20年3月22日（土）13:00～17:30

会場 京都大学医学部附属病院 臨床第一講堂

内容

- 講義1 細胞治療について（京都大学医学部附属病院輸血細胞治療部教授 前川 平）
- 講義2 細胞治療とGMP（京都大学医学部附属病院分子細胞治療センター 笠井 泰成）
- 講義3 細胞プロセッシングに関わる施設機器の開発（三洋電機株式会社 中尾 敦）
- 講義4 臍帯移植の現状と課題（京都大学医学部附属病院移植外科 興津 輝）
- 講義5 樹状細胞を用いた細胞免疫療法（京都大学医学部附属病院血液腫瘍内科 門脇 則光）
- 講義6 間葉系幹細胞を用いた骨再生（京都大学再生医科学研究所 青山 朋樹）

詳細は医学検査（Vol.57 No.2 2008）または日臨技HPをご覧ください

## 平成19年度第7回定例理事会議事録

日時：平成19年12月15日(土) 10:30~12:00  
 場所：サンプラザ万助  
 議長：湯浅宗一  
 書記：今田 議事録署名人：今井、白波瀬  
 出席顧問：なし  
 出席監事：なし  
 出席理事：湯浅、芦田、今井、白波瀬、荻野、佐々木、丹羽、  
 廣瀬、今田、  
 委任状出席：石澤、江見、大田、小澤、小原、白井、豊山、  
 林(孝俊) 林(雅弘) 若栗

## 1.【報告事項】

- 湯浅会長報告
- 1) 日臨技
- 11月17日 全国会長会議(医学検査会報JAMT記載あり)
- 1 平成19年度上半期事業報告  
 日臨技データ標準化事業  
 全国輸血研修会  
 認定事業  
 第3回JAMT-JIMTEFセミナー(3/19~3/23)
- 2 平成20年度事業構想について  
 公益認定に向けての事業  
 AAMLS学会に向けての準備
- 3 公益認定について
- 12月1日 日臨技生理検査研修会 挨拶 於 京都テルサ
- 12月2日 日臨技フォーラム パンフレット配布 於大阪梅田
- 2) 近臨技
- 11月24日~25日 第47回近畿医学検査学会 於大阪  
 理事会で平成21年近畿学会担当が京都に決定
- 12月1日 JICA研修反省会 於 JICA 大阪  
 来年の研修に向けての課題について 研修内容、研修時間
- 3) 京臨技
- 12月13日 調整会議 於 京都保健衛生専門学校
- 4) その他
- 日臨技第3回役員推薦委員会  
 平成20年・21年度役員候補者の選出について  
 芦田副会長
- 1) 京都府保健福祉部より「府政円卓会議~がん対策を考える~」に参加しました。資料と感想を理事会までにアップします。
- 2) 第5回施設長会議の日程調整&アンケート関係  
 日程3/15で調整
- 3) 他府県技師会との交流についての報告  
 1月から札幌技師会、沖縄技師会と会報にコラムの投稿をしあって交流を行なう  
 札幌技師会は、北海道学会について、京臨技会報にコラムの記載をしていただく予定
- 4) 京都私立病院協会(高齢者医療施設存続の署名)に協力しました
- 荻野学術部長報告
- 11月24日 近臨技チーム医療推進委員会会議  
 ・近臨技チーム医療研修会(平成20年2月10日)について  
 ・日臨技総合管理部門研修会(平成20年2月9日)について
- 11月25日 近臨技理事会  
 ・近臨技一般検査研修会 京都府担当  
 (平成20年2月3日 京都保健衛生専門学校)が承認される)  
 ・近臨技学術部長会議
- 12月1日~2日 日臨技生理機能検査部門研修会(京都府担当) 京都テルサ
- 12月1日 京都糖尿病療養指導士講習会(学術部チーム医療) メルクバルク京都
- 12月11日 臨床化学研修会(学術部)京臨技川端丸太町事務所 参加者会員16名、非会員7名、仮会員0名
- 石澤事業部長報告

・サーベイが終了し、現在サーベイ結果を各委員が集計中。各施設への報告は年明け。

小澤総務部長報告

- 1) 京都府・市関連  
 ・京都府保健医療功労者等知事表彰者名簿受領
- 2) 日臨技関連  
 1. 第57回日本医学検査学会一般演題座長候補者推薦の依頼  
 2. JAMTIS登録用携帯端末シンボル社製SPT1500について 修理対応期間 2008年1月まで(再連絡)  
 3) 近臨技関連 第47回近畿医学検査学会終了御礼受領  
 4) 他団体関連  
 ・京都府保険医協会 「11.23 府民の集い」開催報告と賛同御礼 参加者1800人  
 ・京都府医療推進協議会 イベント開催報告と御礼 参加者1100人、負担金請求50,000円  
 ・日本ユニセフ協会 募金依頼 議案  
 ・京都がん医療を考える会 会報第9号5部受領  
 ・京都私立病院協会 新春会員懇親会出席依頼  
 1月19日(土) 京都ライオンホテル 16:00~18:30  
 ・プライマリーケア協議会休会連絡受領
- 5) 京臨技関連  
 ・会員数 12/14 現在 923名(新入会員79名を含む)  
 ・京臨技行事予定発送予定 12月20日  
 白井理事報告  
 ・医療推進協議会イベント参加報告  
 日時：平成19年11月10日(土)  
 場所：京都勤業館「みやこめっせ」  
 イベントテーマ：これからの医療・介護・福祉を守るために~みんなが安心できる社会を目指して~  
 イベント内容：輸血検査実演、臨床検査の項目や検査値の説明およびパンフレット配布  
 出務：相田幸雄輸血検査班長多気秀和副班長  
 江見安一理事、白井孝夫理事、白波瀬浩幸理事  
 佐々木理事報告  
 ・京都府京都市衛生検査所精度管理専門医委員会  
 ・京都市1/23 ファルコバイオシステムズイムノ研究所に立ち入り調査  
 丹羽理事報告  
 ・来年度の日臨技の全国微生物研修会を京都担当で開催予定

## 2.【議題】

- 1) 京臨技補正予算について(丹羽)(承認)
- 積立金を一部とりかずし、平成19年度補正予算を組む
- 補正予算の金額については次回理事会に提案する  
 理由) 次年度会費は次年度予算として執行すべきであるが、従来から次年度会費を前受金として、当年度予算に組み込んで執行してきた。法人改革を見据えたなかで、来年度から会計処理を適正化したい。従って、今年度は積立金を一部とりかずし補正予算を組み、次年度会費(前受金)は使用しないこととする。
- 2) チーム医療担当理事の選出(荻野)(継続)
- 担当理事を林雅弘理事で調整する
- 3) 日本ユニセフ協会 募金依頼(承認)
- 2万円を募金とする
- 4) 第43回京都病院学会実務委員選出(承認)
- 候補：豊山理事の継続でお願いする  
 開催日20年6月8日(日) 9:00~17:00  
 会場：京都府医師会館  
 第1回実行委員会 2/5(火)16:00  
 当日実行委員の担当理事は次年度理事役員の新体制になつてから選出
- 5) 第8回定例理事会を学術合同会議とし、会議の後新年会  
 会場：第二日赤前 あんじ別館  
 時間：7時30分開始  
 費用：一人4,000円(当日徴収)  
 次回理事会 日程：1月10日(木)  
 会場：京都第二赤十字病院多目的室2

## 平成19年度第8回定例理事会(研究班合同会議)議事録

日時：平成20年1月10日(木)18:00~19:30

場所：京都第二赤十字病院多目的室

議長：湯浅宗一

書記：白井 議事録署名人：林、小澤

出席顧問：小坂

出席理事：湯浅、今井、芦田、白波瀬、石澤、江見、大田、  
荻野、小澤、佐々木、白井、豊山、丹羽、林(孝俊)、  
林(雅弘)、廣瀬、

委任状出席理事：今田

欠席理事：小原、若栗

出席研究班：相田(輸血)、山田(生理)、辻(生理)、江口(病  
理)、中西(血液)、小寺(血清)、小野(微生物)、増  
田(情報)、庄司(情報)

欠席研究班：黒川(細胞)、佐伯(一般)

## 1.【報告事項】

湯浅会長

- 日臨技関係 なし
- 近臨技関係 なし
- 京臨技関係 12月15日 北部学術発表会参加した
- プロモーション地区委員会(日本臨床検査薬協会等が開  
催)開催の案内状が近臨技理事会宛に届いた(回覧)  
2月7日(木)17時30分~19時30分  
興味のある理事は参加されたし

今井副会長

- 北部学術発表会(12月15日)の参加者100余名、情報交  
流会は78名の参加であった

白波瀬副会長

- 会報(No.23)発行した
- 京都府糖尿病協会顧問・理事会(平成19年度第2回)  
1月10日(木):本会理事会と重複のため欠席した

荻野学術部長

- 第57回日本医学検査学会(北海道)における座長を京臨技  
からは以下の人を推薦した

- ・免疫血清検査分野 小寺 宏尚(京都市立病院)
- ・細胞検査分野 白波瀬 浩幸(京都大学医学部附属病院)

小澤総務部長

- 京臨技関連
- ・会報、行事予定表、研修会案内、20年度会費請求書を全会  
員へ発送した
- 京都府関連
- ・公益法人制度改革説明会 湯浅会長、山方事務局員を出席予  
定とする

➢ 日臨技関連

- ・永年職務精励者表彰の受賞者が以下の2氏に決定した。  
小坂 明(久野病院) 今井 秀一(綾部市立病院)
- ・19年度京臨技担当移植部門講習会(日臨技主催)を3月22  
日(土)京大にて開催予定  
担当者：笠井 泰成(京大病院)

現状報告：

添付の研修会案内が医学検査2月号に掲載される。  
講師の内諾は取れている。  
会場手配は出来ている。  
実務員の手配はこれから行う。  
日臨技が示す煩雑な事務作業があるが、書類提出期限は延  
長してもらう。(日臨技は口頭で了解)  
当日は京臨技事業が他に2件重なっており、各研修会への参  
加者の調整をよろしく願います。

➢ 近臨技関連

- ・兵庫臨技新年交礼会1月18日(金) 湯浅会長出席予定。
- 他団体関連
- ・新潟県臨床検査技師会より中越沖地震義援金お礼があった。
- ・京都私立病院協会新春会員懇親会1月19日(土) 芦田副  
会長出席予定
- ・京都府鍼灸師会会長井上慶山先生 藍綬褒章受章祝賀会2月  
24日(日)湯浅会長出席予定
- その他

- ・次回会員宛案内発送予定日1月22日(火)対象は施設連絡  
責任者、賛助会員、他府県、希望会員  
江見理事
- ・1/4現在の会員数は961名(新・再入会80名含む)

## 2.【議題】

共催等申請

- 1.細胞分野研修会 共催申請 (承認)  
共催：奈良県臨床衛生検査技師会、細胞検査士会奈良県支部、  
細胞検査士会京都府支部  
開催日：3月8日  
会場：京都市リサーチパーク
- 2.チーム医療分野研修会 共催申請 (承認)  
共催：京都北部CDEの会、京都府病院薬剤師会、京都府看  
護協会、ノボルディスクファーマ株式会社  
開催日：1月26日  
会場：京都舞鶴医療センター内地域医療センター  
主 題：カーボカウントと支援
- 3.第8回京都呼吸ケア研究会に対する後援 (承認)  
共催：京都呼吸ケア研究会、京都府医師会、京都胸部医会、  
京都内科医会、帝人ファーマ株式会社、帝人在宅医療株式会  
社、京都医療用酸素株式会社  
開催日：3月22日  
会場：京都市リサーチパーク・バズホール

## 3.【意見交換】

- 1.学術事業開催状況
- 2.京臨技次期役員選任について  
研究班からの推薦は2月20日までとする  
検査センターからの推薦も望ましい
- 3.平成20年度京臨技総会準備  
日程表を確認
- 4.平成21年度近畿学会京都開催に向けて
- 5.京臨技運営について

次回理事会 日程：2月14日(木)  
会場：川端丸太町事務所

## 原稿募集

ホームページのリレーコラム、会  
報への原稿を募集しています。自分  
の主張や意見を論じてみるのもよ  
し、学会参加記もよし、趣味やマイ  
ブーム(死語?)について写真と一  
緒に送るもよし、ブログを始める感  
覚で日常を訥々(とつとつ)と語る  
のもよしです。ホームページや会報  
が情報交流の場として利用されれば  
幸いです。お気軽に応募ください。

mbox1@kyoto-amt.js-md.net

# [日臨技発]

## 医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について

平成19年12月28日、厚生労働省医政局長発の通知文が発出されました。「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」<医政発第1228001号>とされる通知によると、医師でなくとも対応可能な業務までも医師が行っている現状、また、看護師等の医療関係職については、その専門性を発揮できていないとの指摘についての対応が示されている。具体的には臨床検査技師が行える業務として「採血や検査についての説明」が記載されている。

これを受け、1月23日厚生労働省において、詳細な説明を求めるとともに当会の見解を述べた。それによると、医療の推進のため関係者の協力のもと「医療職種のより適切な業務」の遂行を求めている。検査業務は「法」のもとに行うことは勿論であるが、(若干の医師の見解の相違は残るものの)幅広い見識を持ち業務を行うことが我々の「業務拡大」にもつながるものであることは言うまでもない。各医療機関においては、十分な話し合いのもとに、積極的な対応をしていただきたい。

-----  
<医政発第1228001号>より抜粋

### 1. 基本的考え方

各医療機関においては、良質な医療を継続的に提供するという基本的考え方の下、医師、看護師等の医療関係職の医療の専門職種が専門性を必要とする業務に専念することにより、効率的な業務運営がなされるよう、適切な人員配置の在り方や、医師、看護師等の医療関係職、事務職員等との適切な役割分担がなされるべきである。

以下では、関係職種間の役割分担の一例を示しているが、実際に各医療機関において適切な役割分担の検討を進めるに当たっては、まずは当該医療機関における実情(医師、看護師等の医療関係職、事務職員等の役割分担の現状や業務量、知識・技能等)を十分に把握し、各業務における管理者及び担当者間における責任の所在を明確化した上で、安全・安心な医療を提供するために必要な医師の事前の指示、直接指示のあり方を含め具体的な連携・協力方法を決定し、関係職種間での役割分担を進めることにより、良質な医療の提供はもとより、快適な職場環境の形成や効率的な業務運営の実施に努められたい。

### 2. 役割分担の具体例

#### (3) 医師と看護師等の医療関係職との役割分担

#### 6) 採血、検査についての説明

採血、検査説明については、保健師助産師看護師法及び臨床検査技師等に関する法律(昭和33年法律第76号)に基づき、医師等の指示の下に看護職員及び臨床検査技師が行うことができることとされているが、医師や看護職員のみで行っている実態があると指摘されている。

医師と看護職員及び臨床検査技師との適切な業務分担を導入することで、医師等の負担を軽減することが可能となる。

-----  
参考) 日臨技ホームページ

<http://www.jamt.or.jp/information/tuuchi/080130yakuwari.pdf>